



ポルトガル共和国と スペインを訪問して

昨年11月19日から同25日まで、ポルトガル共和国のポルト市とリスボン市、そしてスペインのコルドバ市を訪問しました。今回の訪問は、ポルト市で開催された「ジャパンウィーク2010」への参加と、リスボン市にある国立アジュダ図書館への訪問、コルドバ市でのオリーブオイル会社の視察が主な目的でした。
今回の訪問の内容について、市民の皆さんにご報告します。



ジャパンウィーク2010で 天草をPR

「ジャパンウィーク2010」は、今年が1860年に日本とポルトガル共和国との間で修好通商条約が署名され、両国が近代的な外交関係を樹立後150周年にあたることから、単なる修好の歴史にとどまらず、1543年の種子島鉄砲伝来以来、500年近くにわたる両国交流史のうえに築かれた意義ある150年でもあり、両国民がこれまでの歴史を振り返り、新時代を考えるまたとない機会ということ、記念事業として開催されたものです。
この事業を主催する財団法人



▲ポルト市のリオ市長を表敬

国際親善協会から、16世紀の大航海時代、天草市がポルトガル宣教師によってキリスト教や南蛮文化が伝えられ、今なおその歴史や文化が息づく地域であり、ポルトガル共和国と関係が深い自治体ということで、参加を強く要請されたことを受け、参加しました。
(社)天草宝島観光協会にご協力いただいた「天草ハイヤ」の宣伝隊が、オープニングや公式レセプションでハイヤ踊りを披露し、専用ブースにおいても、天草の文化や観光を紹介するパネルを展示するなど、天草をPRするとともに、ポルト市民や観光客、さらには参加団体の皆さんとも親善・交流を深めることができました。

国立アジュダ図書館を訪問

リスボン市では、国立アジュダ図書館を訪問しました。ここには、1585年と1589年の2度天草に来島し、フロイスの「日本史」で著名なポルトガルの宣教師ルイス・フロイスが著した、「天正天草合戦」の表

記がある貴重な原史料が所蔵されていることから、クリスティーナ同図書館館長にお会いし、史料の写真撮影や関連箇所のコピーをいただきました。
天草キリシタン館における史料の写真やコピーなどの展示についても、ご理解をいただきましたので、現在、展示に向け準備を進めています。また、館長との会談の中で、今後とも必要な史料があれば、天草市への協力は惜しまないという、たいへんありがたいお言葉をいただきました。
ポルトガルの街並みは悠久の歴史を感じさせ、中世の世界に



▲大勢の観客を前にして披露された「天草ハイヤ」

スペイン有数の オリーブオイル会社を視察

スペインでは、世界有数のオリーブの産地を訪問しました。今回の訪問の機会を捉え、市の主要施策である「豊かな産業づくり」の大きな柱の一つであります「オリーブの島づくり」の事業推進の一環として、スペインで最も生産量の多いアンダルシア州のコルドバ市で、「アルクビージャ」というオリーブオイルの会社を訪問し、有機農法の大規模オリーブ農場と加工場などで、オリーブの栽培、加工、商品開発の現場を視察させていただきました。



▲見渡す限りに広がるオリーブ畑

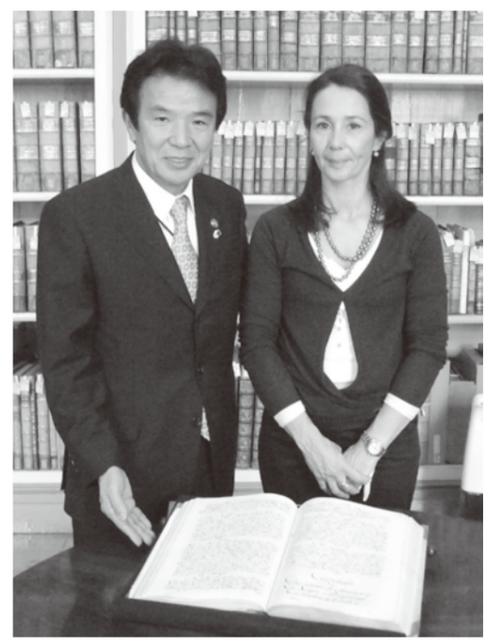
じ品種でも、栽培された気候・風土、天候、収穫時期、圧搾方法など、さまざまな条件により味が大きく左右されます。輸出品に対抗できる天草ブランドをつくるためには、天草の自然環境に適し、より日本人の味覚に合うオリーブの品種を育てるとともに、付加価値の高いオリーブオイルを生産する技術を早急に確立する必要があります。



▶「アルクビージャ」を視察するようす

訪問を終えて

今回の訪問では、天草のPRという意味で手ごたえを感じる事ができました。また、いろんな方々とお会いし、多くの収穫を得ることができました。そして、なによりも、ポルトガルと天草の長く深いつながりを、再確認することができる訪問でした。



◀「天正天草合戦」の表記がある原史料を前にしてクリスティーナ同図書館館長とのスナップ

工場での加工工程はむだがなく、しかし手間をかけたていねいな作業が繰り返し行われており、長い時間をかけて改良を続けられてきた歴史を感じました。オリーブオイルの場合、同

たばかりですが、九電工のパイロット事業の進捗よく状況や研究機関の分析結果などの情報をとらえ、生産体制の整備と並行しながら、商品の研究・開発に取り組みが必要があると、あらためて感じたところです。

天草市長
安田 公寛